

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

Solving the riddles of the No More...than construction

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-11-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 本多, 啓, HONDA, Akira メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2324

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



クジラの公式の謎を解く

本多啓

1. クジラ構文の例とその謎

本稿は日本の英語教育で「クジラの公式」あるいは「クジラ構文」と呼ばれているものの意味を扱います。クジラ構文とはたとえば次のようなものです。

(1) a. A whale is no more a fish than a horse is.

b. クジラが魚でないのは、馬が魚でないのと同じだ。

この種の文に関しては、どうしてこのように訳されるのか疑問に感じている人もいでしょう。まず「馬が魚でない」なんて英文ではどこにも書いてありませんし、「同じだ」とはどういうことかも分かりにくいでしょう。あるいは、この文を直訳したらどうなるのだろうと思ったことがある人もいかもしれません。

ですが本稿ではこれらの疑問には直接には答えません。というのは、このような疑問はクジラの公式の意味を (1b) のような日本語訳から考えようとするところから生まれるものだからです。本多 (2015b) でも述べたように、英語の表現の意味を考えると日本語訳に基づいて考えることには問題があります。

それでは本稿ではどのようなアプローチをとるのでしょうか。

一つのありうる立場は、「これはイディオムだから意味の仕組みを考えても仕方ない」と諦めるというものです。しかし第 12 節で述べるようにこの発想には問題があります。したがって本稿ではそのような立場はとりません。

¹本稿は本多 (2015a, 2015b) および山口・三間・那須・本多 (2015) に掲載された他の論考と同様、英語学の教科書の 1 章として構想したものである。そのため文体は教科書調になっている。内容は 2016 年度神戸市外国語大学「意味論講義」第 13 回「合成表現の意味構造 (4): クジラの公式の謎を解く」(2017 年 1 月 23 日) を修正増補したものである。特に断り書きのない限り URL の最終確認日は 2017 年 4 月 1 日である。また、原稿を読んでコメントをくれた神戸市外国語大学大学院生の萩澤大輝氏に感謝します。本稿を故三間英樹教授に捧げ、ご冥福をお祈りいたします。

本稿では *be going to* を扱った本多 (2015a) や *even if* を扱った本多 (2015b) と同様、「見たまま」のアプローチをとります。具体的にはクジラ構文の意味を比較表現の意味構造から解明することを目標とします。

2. クジラ構文の基本的な意味

実はクジラ構文に関してはすでに優れた研究が提出されており²、この構文の基本的な意味についてはほぼ見解の一致を見ていると言える状況です³。本稿の前半はそれらに基づいた議論を提示します。

たとえば柏野 (2012) は次のように述べています。

- (2) …X is no more (...) than Y の構文は意味論的には、「主節で表されている程度と than 節で表されている程度が同じ」であることを言っているだけであって、… (柏野 (2012: 230))

これはクジラ構文の基本的な意味を的確に捉えていると思われます。ただ、これだけでは簡潔すぎて理解しにくいのも確かでしょう。

そこで本稿では平沢 (2012, 2014) の提案に基づいた議論を提示します。それは次のようなものです。

- (3) 「クジラ構文 (no more ... than)」の意味は、「後行命題が真である蓋然性よりも先行命題が真である蓋然性が高いだろう」という聞き手の想定を否定し、その二つの蓋然性の間に差はない（つまり同程度である）と述べることにある。 (平沢 (2014: 202))

理解に必要な道具立ては次の2つです。

- (4) a. 比較表現における「差分スロット」
b. 差の存在についての想定の一掃

カギになるのは *no* が果たす役割です。これによってクジラ構文の意味が比較表現の意味構造から自然に導かれることとなります。以下、このことについて見ていきます。

3. 差分スロット

「差分スロット」とは次のようなものです。

² たとえば今井 (2012)、柏野 (2012)、平沢 (2012, 2014)、澤田 (2016) など。

³ 平沢 (2012) を含めたいいくつかの論考を明示的に批判した論文として八木 (2015) がありますが、それについてのコメントはページ数の都合で本稿では割愛します。

- (5) 比較級の直前に数量詞ないし数量を指す名詞句が置かれ、その数量が比較されている二者のレベルの差分に相当することがある。本稿では、比較級の直前に、差分を表すフレーズが入るための「差分スロット」がある、という言い方をすることにする。 (平沢 (2012: 54))

具体的には次の例文の下線を引いた箇所です。

- (6) a. John is two inches taller than Susan.
 b. [...] the man said, nodding toward Connelly, who was a head taller than the others.
 c. Brian was three pounds heavier than Stewie.
 d. Mike drank much / * many more milk than Bill.
 e. Bloch bought many / * much more books than Katya.
 f. Mike drank a little / * a few more milk than Bill.
 g. Bloch bought a few / * a little more books than Katya.
 h. Cathy was much more tired than her sister.
 i. Cathy was a little / a bit / a little bit more tired than her sister. (平沢 (2012: 55))

(6a) の *two inches* はジョンとスーザンの背の高さの差が2インチであることを示しています。(6e) の *many* は両者の買った本の数の差が *many* であることを示しています。

(7)(8) は英英辞典の例です。

- (7) a. Can't you work a few more jokes into your speech? (OALD s.v. work)
 b. Try to put a little more expression into it! (OALD s.v. expression)
- (8) a. The universities have expanded, thus allowing many more people the chance of higher education. (OALD s.v. thus)
 b. It should not be forgotten that people used to get much more exercise. (OALD s.v. forget)

それでは差分スロットに *no* が入った場合にはどのような解釈になるのでしょうか。

- (9) a. The answer sheet was so small that I was able to write no more than 30 words. (解答用紙が小さくて30語しか書けなかった。)

b. [...] he was able to eat **no more** than a bite or two [...]

(彼は一口か二口しか食べられなかった。)

((平沢 (2012: 56))、日本語訳は本多)

(10) a. He turned, and in that first, fatal glimpse of her [...] he guessed that she was even younger than sixteen [...]. **No more** than a baby, he said to himself [...]

(…16 歳にもなっていない。ただの赤ん坊じゃないか。…)

b. The boy, rapidly withdrawing into shyness, managed **no more** than a faint hello.

(…かすかに hello と言うことしかできなかった。)

(平沢 (2012: 56)、日本語訳は本多。)

(9a) の *no* は書けた字数と 30 の差がゼロだったことを表しています。(9b) でも同じように *no* は食べられた量と「一口か二口」の差がゼロだったことを表します。(10) も同様です。

つまりこの場合の *no* の役割はとりあえず次のようにまとめることができます。

(11) 比較表現の差分スロットに現れる *no* は何を表すか? (暫定版)

比較表現の差分スロットに入った *no* は、差分がゼロであることを表す。

4. 差の存在についての想定 of 覆し

前節で差分スロットに入った *no* の働きをとりあえず (11) のようにまとめてみました。しかし (11) は比較表現における *no* の働きを完全に説明しきっているわけではありません。もう一度次の例を見直してみましょう。

(9) a. The answer sheet was so small that I was able to write **no more** than 30 words.

(解答用紙が小さくて 30 語しか書けなかった。)

b. [...] he was able to eat **no more** than a bite or two [...]

(彼は一口か二口しか食べられなかった。)

日本語訳に現れている「しか」の意味合いはどこからくるのでしょうか。

(9a) においては「解答用紙には (30 語より) たくさん書けるだろう」という事前の想定があると考えられます。ところが実際に書けた語数は 30 と差がなかった、というわけです。「30 語との間には差があるだろう、それより多いだろう」という想定が覆されるところから「30 語しか」の意味合いが出てくるわけ

です。

これをこの英文に出てくる表現に即して言い直すと、事前の想定として“more than 30 words”があったのが、実際に書けた字数は“30 words”と差がなかった、ということになります。No more than ... は一つのまとまりとして「たった…」 「…しか」という意味を持つようになっていますが、それは *no* がこのように「差の存在についての想定の覆し」を表すことに由来しているわけです。

(9b) も同様です。

No more than の *more* を *less* で置き換えた *no less than* も同様に考えることができます。

(12) The guide contains details of no less than 115 hiking routes.

(このガイドでは 115 件のハイキングルートが詳しく紹介されている。)

(平沢 (2012: 57)、日本語訳は本多。)

事前の想定としては、「このガイドに載せられているハイキングルートの件数は (115 より) 少ないだろう」と思われているわけです。ところが実際には掲載された件数は 115 と差がなかった、というわけです。「115 との間には差があるだろう、それより少ないだろう」という想定が覆されることから、「115 件も」の意味合いが出てくるわけです。

これをこの英文に出てくる表現に即して言い直すと、事前の想定として“less than 115 hiking routes”があったのが、実際に紹介されている件数は“115 hiking routes”と差がなかった、ということになります。No less than ... が一つのまとまりとして「…も」という意味を持つようになっているのも、no more than ... の場合と同じように、*no* が「差の存在についての想定の覆し」を表すことに由来しているわけです。

すでに出てきた次の例でも同じことが起こっています。事前の想定がどのようなものかについてはみなさんそれぞれ考えてみてください。

(10) a. He turned, and in that first, fatal glimpse of her [...] he guessed that she was even younger than sixteen [...]. No more than a baby, he said to himself [...]

b. The boy, rapidly withdrawing into shyness, managed no more than a faint hello.

以上から、比較表現の差分スロットに現れる *no* の役割を次のようにまとめることができます。

(13) 比較表現の差分スロットに現れる *no* は何を表すか？ (確定版)

比較表現の差分スロットに入った *no* は、後続の比較級で表されるような差

が存在するだろうという事前の想定が誤りで、実は差分がゼロであるということを表す。

5. ここまでのまとめ

以上をまとめると次のようになります。

繰り返しになりますが、クジラ構文の意味は (3) です。

- (3) 「クジラ構文 (no more ... than)」の意味は、「後行命題が真である蓋然性よりも先行命題が真である蓋然性が高いだろう」という聞き手の想定を否定し、その二つの蓋然性の間に差はない（つまり同程度である）と述べることにある。 (平沢 (2014: 202))

これはクジラ構文を比較表現の差分スロットに *no* が入ったものとする立場です。この *no* は次の役割を果たしています。

- (13) 比較表現の差分スロットに現れる *no* は何を表すか？ (確定版)

比較表現の差分スロットに入った *no* は、後続の比較級で表されるような差が存在するだろうという事前の想定が誤りで、実は差分がゼロであるということを表す。

具体的な例で考えてみましょう。

- (14) A whale is no more a fish than a horse is.

比較表現の意味を考えるときには、「何」と「何」が「どのような規準」に関して比較されているかを考えることが大事です。(14) の場合にはこれはどうなるのでしょうか。

(14) では、次の二つの命題が比較されています。

- (15) a. A whale is a fish.

- b. A horse is a fish.

この二つが「正しい命題である可能性(真である蓋然性)」に関して比較されているわけです。

この例の場合、「後行命題が真である蓋然性よりも先行命題が真である蓋然性が高いだろう」という聞き手の想定」とは具体的には、「クジラは魚である」は「馬は魚である」に比べて真である可能性が高い⁴になります。

⁴ クジラはその生息場所・身体の形状・泳ぎ方などが魚に類似しており、生物に関する知識がなければ魚と間違える可能性がある、ということからこのような想定が生まれます。ただ、現代の

以上から、この文の意味は次のようになります。

- (16) ● ちょっと考えると、「クジラは魚である」は「馬は魚である」に比べて真である可能性が高いと思われるかもしれない。つまり *A whale is more a fish than a horse is a fish.* とと思われるかもしれない。

(差の存在についての想定)

- しかし実際には両者の間の差はゼロである。(差分スロットには *no* が入っている。)

(差の存在についての想定)⁵の覆し)

- つまり「クジラは魚である」は「馬は魚である」に比べて真である可能性が高いわけではなく、両者の差はゼロである。

以上が (14) の文としての意味ですが、これではまだピンとこない、という人もいるかと思います。何か足りない。いったい何が足りないのでしょうか。

この文の場合には、次のような一般常識的な知識⁵が自然に想起されて、それが理解に関わってきます。

- (17) 「馬が魚である」可能性は(一般常識からも明らかのように)皆無である。

(16) と (17) から次の結論が導かれます。

- (18) したがって、「クジラが魚である」可能性も皆無なのである。

(16) ~ (18) をまとめると、次のような日本語訳ができるわけです。

- (19) クジラが魚でないのは馬が魚でないのと同じだ。

一見複雑で訳が分からないように見える「クジラの公式」の意味は、このように比較表現の意味構造から自然に導かれるものなのです。

ここまでが平沢 (2012, 2014) に基づく解説です。ここから先は平沢論文とは違う本稿オリジナルの説明になります。

6. クジラ構文の解釈

6.1. クジラ構文にはいくつの解釈があるか

実はクジラ構文には筆者の見る限り少なくとも3つの解釈があります。それ

日本に暮らしている私たちは、「クジラは哺乳類であって魚ではない」ということを当たり前のよう理解しているため、この想定は不自然に感じられるかもしれませんが。そしてそのことが、日本人学習者にとってこの文の解釈が難解に感じられる原因の一つになっている可能性があります。

(これは萩澤大輝氏の指摘(私信)によります。)

⁵ 認知意味論では「フレーム」と呼びます。

に仮に次のように名前をつけておきます。

- (20) a. いわゆるクジラの解釈 (前件否定)
- b. 「実はそれほどでもない」の解釈 (前件抑制)
- c. 「こっちだってそうだ」の解釈 (後件指摘)

この3つは(結果としては)それぞれ柏野 (2012) の言う「A タイプ」「B-1 タイプ」「B-2 タイプ」と重なります。

以下、具体例を見ていきます。

6.2. いわゆるクジラ (前件否定) の解釈

これは (21) のようないわゆる「クジラの公式」と言われるものの場合の解釈で、前件の妥当性を積極的に否定するものです。

(21) a. A whale is no more a fish than a horse is. (= (14))

 b. クジラが魚でないのは馬が魚でないのと同じだ。

 前件 A whale is a fish.

 後件 A horse is a fish. (= (19))

実例では次のようなものがあります。

(22) a. President Obama said Thursday that Syrian refugees are no more dangerous to the U.S. than tourists, ... (Web)⁶

 b. シリアからの難民は合衆国にとって危険な存在ではない。それは観光客が合衆国にとって危険な存在でないのと同じことだ。

 シリアからの難民が合衆国にとって危険でないのは観光客が合衆国にとって危険でないのと同じだ。

 前件 Syrian refugees are dangerous to the U.S.

 後件 Tourists are dangerous to the U.S.

この例では「観光客は合衆国にとって危険な存在ではない」という一般常識的な知識が関わっています。第5節でやったような解析はここでは行いませんが、みなさんそれぞれ試みてみられると理解が深まるでしょう。

⁶ <http://www.sfaw.org/newswire/2015/11/21/obama-says-syrian-refugees-are-no-more-dangerous-than-tourists/>

6.3. 「実はそれほどでもない」(前件抑制)の解釈

これは (23) のような例の場合の解釈で、前件で述べられている事柄を抑制するものです。

(23) President Obama says marijuana use is no more dangerous than alcohol, though he regards it as a bad habit he hopes his children will avoid. (Web)⁷

前件 Marijuana use is dangerous.

後件 Alcohol is dangerous.

この下線部を (24a) のようにいわゆるクジラの解釈の例と考えることはできません。元の Web 記事を読めば明らかですが、オバマ大統領(当時)はアルコール摂取を危険でないと言っているわけではありませんし、マリファナ摂取を推奨しているわけでもありません。ただ、マリファナ摂取が非常に危険だと思われているのに対して、(24b) のように「実はそれほどでもない」と言っているわけです。

(24) a. ×マリファナの使用が危険でないのはアルコールが危険でないのと同じだ。(前件否定)

b. ○マリファナの使用が危険だとはいってもそれはせいぜいアルコールが危険なのと同じ程度だ。(前件抑制)

次は小説の一節です。

(25) `Miranda, dear boy, is *beautiful*. Whether she can sing a note or nine don't matter three damns, she is *beautiful*.'

Teddy frowned. `Now you're going too far, Dick. I know she's tall and all that, and her figure's quite good, but she's no more beautiful than you or I.'

(Google Books⁸; イタリックは原文、下線は本多。)

(26) 「ミランダってかわいいよなあ。どのくらい歌が歌えるかなってどうでもいい。とにかくあの子はかわいい」

テディーは眉をひそめて言った。「ちょっとそれは言い過ぎだろ。たしかにミランダは背は高いしスタイルもまあいいしだけど、でも外見がいいって言ったってお前とか俺とかと変わらないレベルだよ」

⁷ <http://www.usatoday.com/story/news/politics/2014/01/19/obama-marijuana-not-so-bad/4649883/>

⁸ Charlotte Bingham (2000) *The Blue Note* (BANTAM)

<https://books.google.co.jp/books?id=d5LY9NOJsKYC&pg=PT254>

作中でミランダはモデルの仕事をするくらいの女性なので、下線部を(27a)のようにいわゆるクジラの解釈の例と考えることは適切ではないでしょう。テディーにとってミランダは妹のような存在なので、「美しい女性」という見方で見るのが困難ということのようです。ということで、上のオバマ大統領のマリファナについての発言と同様の(27b)の解釈が妥当でしょう。

- (27) a. ×でもミランダは別に外見がいいわけではないよ。それはお前とか俺とかが外見がよくないのと同じだ。
(前件否定)
- b. ○でもミランダが外見がいいっていても、お前とか俺とかと同じぐらいのものだよ。
(前件抑制)

6.4. 「こっちだってそうだ」(後件指摘)の解釈

3番目の解釈の例は次の(28)です。後件の妥当性を積極的に強調するものです。

- (28) Does she --- have a husband? She is very beautiful. Female intuition was a remarkable thing. “Yes. She does. And she is no more beautiful than you, Anne.” I meant it sincerely but she waved away the compliment.

(明日 (2014: 97-98)、下線は本多)

前件 She is beautiful.

後件 You are beautiful.

日本語訳をつけておきましょう。

- (29) あの人…旦那さんいるのかしら？とってもしきれいな人よね」女性の直観というのはすごいものだ。「ああ、いるよ。で、たしかにあの人はきれいだけど、アン、君だって負けてないよ」ぼくは素直に思った通りのことを言ったのだが、アンはこのほめ言葉を打ち消すように手を振った。(本多訳)

これについては、下線を引いた部分を考慮に入れれば、前件否定のいわゆるクジラの解釈(30a)も前件抑制の「実はそれほどでもない」の解釈(30b)も適切ではないでしょう。妥当なのは「こっちだってそうだ」の後件指摘の解釈(30c)です。

- (30) a. ×あの方は美人でも何でもありません。それは君が美人でないのと同じだ。
(前件否定)
- b. ×あの方は美人は美人だけど大したことはない。まあ君と同じくらいだ。

(前件抑制)

- c. ○君の言う通りあの人は美人だけど、君だってあの人に負けないくらい美人だよ。
(後件指摘)

クジラ構文にはこのように少なくとも3つの解釈があります。次の問題は、この3つの解釈がどのような仕組みで出てくるのかということです。

7. 解釈が生まれる仕組みその1: 「前を下げる」か「後ろを上げる」か

7.1. 2通りの解釈がある例文

ここでは3つの解釈が生まれる仕組みについて次の例文で考えていきます。

- (31) Isabel is no more a liar than you. (明日 (2014: 98))

この例文には2つの解釈があります。

- (32) a. (相手が「イザベルはひどい嘘つきだ」と言ったあとで、そのことを否定せずにこの文を言ったという状況で)

お前の言う通り、イザベルが嘘つきだと言うなら、お前だって嘘つきだ。
(後件指摘)

- b. イザベルは嘘つきではない。それはお前が嘘つきでないのと同じだ。
(前件否定)

明日 (2014: 98) で言及されている解釈は (32a) の「イザベルが嘘つきだと言うならお前だって嘘つきだ」という後件指摘の解釈ですが、(32b) の「お前が嘘つきでないのと同じでイザベルは嘘つきではない」という前件否定の解釈もあるわけです。

つまり (31) には前件否定と後件指摘の両方の解釈があるということです。この文を材料にして、それぞれの解釈が出てくるしくみを考えていきます。

7.2. 「差の存在の想定打ち消し」のための2通りの認知操作の可能性

- (31) Isabel is no more a liar than you.

この文の前件と後件、事前想定、そして最終表示の核心部分はそれぞれ次のようになっています。

- (33) 前件 Isabel is a liar.

後件 You are a liar.

(34) 事前想定

命題が真と捉えられる程度

主節 (先行命題) 従属節 (後行命題)

命題中の属性の程度

(高)

Isabel is a liar.

|

(低)

You are a liar.

(35) 最終表示の核心

Isabel is a liar.

You are a liar.

事前想定においては前件の *Isabel is a liar* の蓋然性が後件の *You are a liar* の蓋然性より高いと思われているわけですが、差の存在の想定が打ち消されることによって両者の蓋然性の差がなくなったものが最終表示である、というのがこの文の意味です。

ここで、差の存在の想定を打ち消すための認知操作に、少なくとも3つあることに注意してください。それは、「前を下げる（前件の蓋然性を見積もりを下げる。後件は固定。）」と「後ろを上げる（後件の蓋然性を見積もりを上げる。前件は固定。）」「両方を行う（どちらも固定せず。）」です。それをまとめて図に表したものが次の (36) です。

(36) (高) *Isabel is a liar.*

| ↓

↑

(低)

You are a liar.

(37) 「差の存在の否定」をどのように行うか

- a. 前を下げる（前件の蓋然性を見積もりを下げる。後件は固定。）
- b. 後ろを上げる（後件の蓋然性を見積もりを上げる。前件は固定。）
- c. 両方同時にやる（どちらも固定せず。）

ここではこの3つのうち、「前を下げる」と「後ろを上げる」について検討していきます⁹。

⁹ (37c) が該当する例については今のところ見つかっていません。

7.3. 「前を下げる」の場合

「前を下げる（前件の蓋然性を見積もりを下げる。後件は固定。）」の場合、
 (38) の事前想定に対する差の存在の打ち消し操作は (39) となります。

(38) 事前想定

(高) Isabel is a liar.

|

(低) You are a liar.

(39) 差の存在の否定

(高) Isabel is a liar.

| ↓

(低) You are a liar.

(40) 最終表示

(高)

|

(低) Isabel is a liar. You are a liar.

この場合の解釈は次のようになります。

(41) イザベルは嘘つきではない。それはお前が嘘つきでないのと同じだ。

(=(32b); 前件否定)

冒頭の例文も次のように考えることができます。

(42) A whale is no more a fish than a horse is.

(43) 事前想定

(高) A whale is a fish.

|

(低) A horse is a fish.

(44) 差の存在の否定

(高) A whale is a fish.

| ↓

(低) A horse is a fish.

(45) 最終表示

(高)

|

(低) A whale is a fish. A horse is a fish.

(46) クジラは魚ではない。それは馬が魚でないのと同じだ。

7.4. 「後ろを上げる」の場合

「後ろを上げる（後件の蓋然性を見積もりを上げる。前件は固定。）」の場合、
(47) の事前想定に対する差の存在の打ち消し操作は (48) となります。

(47) 事前想定

(高) Isabel is a liar.

|

(低) You are a liar.

(48) 差の存在の否定

(高) Isabel is a liar.

|

↑

(低) You are a liar.

(49) 最終表示

(高) Isabel is a liar. You are a liar.

|

(低)

この場合の解釈は次のようになります。

(50) イザベルが嘘つきだと言うなら、お前だって嘘つきだ。(=(32a); 後件指摘)

次の例も同じように考えることができます。

(51) Anne: She is very beautiful.

ぼく: She is no more beautiful than you. (= (28))

(52) 前件 She is beautiful.

後件 You are beautiful.

(53) 事前想定

(美しさの程度)

(高) She is beautiful.

|

(低) You are beautiful.

(54) 差の存在の否定

(美しさの程度)

(高) She is beautiful.

|

↑

(低) You are beautiful.

(55) 最終表示

(美しさの程度)

(高) She is beautiful. You are beautiful.

|

(低)

(56) 君の言う通りあの人は美人だけど、君だってあの人に負けないくらい美人だよ。 (後件指摘)

以上でいわゆるクジラ(前件否定)の解釈と「こっちだってそうだ」(後件指摘)の解釈が説明できました。

8. 解釈が生まれる仕組みその2: 「ゼロ」か「漠然と低い・相対的に低い」か

次に、「実はそれほどでもない」(前件抑制)の解釈について考えます。ここでカギになるのは、「前を下げる」における「低」の實質です。具体的には、「命題が真と捉えられる程度が低い」には「程度がゼロ」の場合と「程度がゼロではないが漠然と低い、程度が他に比べて相対的に低い」の場合とあるということです。それぞれについて見ていきます。

8.1. 「ゼロ」の場合

次の文をもう一度考えます。

(57) A whale is no more a fish than a horse is.

前件 A whale is a fish.

後件 A horse is a fish.

ここで、後件の A horse is a fish の蓋然性がゼロであることを踏まえて事前想定、差の存在の否定、最終表示を書き直すと次のようになります。

(58) 事前想定

(高) A whale is a fish.

|

(ゼロ) A horse is a fish.

(59) 差の存在の否定

(高) A whale is a fish.

|

↓

(ゼロ) A horse is a fish.

(60) 最終表示

(高)

|

(ゼロ) A whale is a fish. A horse is a fish.

(61) クジラは魚ではない。それは馬が魚でないのと同じだ。

8.2. 「漠然と低い・相対的に低い」の場合

それに対して「命題が真と捉えられる程度が低い」が「程度がゼロではないが漠然と低い、程度が他に比べて相対的に低い」の場合の例としては、次の (62) があります。

(62) Barack Obama says marijuana is 'no more dangerous than alcohol' and users should not be jailed. (Web)¹⁰

¹⁰ <http://www.independent.co.uk/news/world/americas/barack-obama-says-marijuana-isno-more-dangerous-than-alcohol-9070594.html>

(63) 前件 Marijuana is dangerous.

後件 Alcohol is dangerous.

(64) 事前想定

(高) Marijuana is dangerous.

|

(そんなに高くはない)

Alcohol is dangerous.

(65) 差の存在の否定

(高) Marijuana is dangerous.

|

↓

(そんなに高くはない)

Alcohol is dangerous.

(66) 最終表示

(高)

|

(そんなに高くはない) Marijuana is dangerous. Alcohol is dangerous.

解釈は次のようになります。

(67) マリファナが危険だとはいってもそれはせいぜいアルコールが危険なのと同じ程度だ。 (前件抑制)

これで3つの解釈が説明できたこととなります¹¹。

9. 3つの解釈が生まれる仕組みのまとめ

クジラ構文の3つの解釈についての以上の議論をまとめると、表1のようになります。表には代表的な先行研究の分類との対応関係¹²を含めてあります。

¹¹ 論理上は「後ろを上げる」に関しても「高」の実質が「漠然と高い、他と比べて相対的に高い」と「程度が1」に分けられる可能性があります、実際にはその区別が必要になる例は見つかっていません。

¹² この対応は細かいところまで見れば成り立たないところもありますが、基本的にはこのようになっていると考えられます。

表1: クジラ構文の3つの解釈が生まれる仕組みのまとめ

差の存在の否定の仕方	前を下げる		後ろを上げる
「低」の実質	「ゼロ」	「相対的に低い」	
解釈	いわゆるクジラ (前件否定)	「実はそれほどでもない」 (前件抑制)	「こっちだって そうだ」 (後件指摘)
柏野 (2012)	A タイプ 命題の比較	B タイプ 程度の比較	
	否定的	B-1 タイプ 否定的	B-2 タイプ 肯定的
平沢 (2012, 2014)	否定型	肯定型	
八木 (2015)	同定イディオム (クジラの公式)	比較構文	

10. 語用論的な特性はどこから出てくるのか

10.1. 柏野 (2012) の観察

柏野 (2012) はクジラ構文の語用論的な特性について次のような趣旨の指摘をしています。

- (68) いわゆるクジラの解釈 (前件否定) と「実はそれほどでもない」の解釈 (前件抑制) は相手に対する反論を提示する機能を持つことがあり、「こっちだってそうだ」の解釈 (後件指摘) は相手に同意するとき用いられることがある。
(引用ではなく本多によるまとめ)

それぞれの例を挙げておきます。

(69) 前件否定型

You, a detective? Ha! You're no more a detective than my grandmother!

(おまえが刑事だって？ははっ！おまえが刑事なわけないだろ！)

(大西・マクベイ (2011: 307), 柏野 (2012: 232))

(70) 前件抑制型

A: The movie we have just seen is great.

B: No, it is no greater than soap opera.

（「素晴らしい映画だったね」 --- 「そうかな。メロドラマ程度だったよ」）

（柏野 (2012: 233)）

(71) 後件指摘型

“It's more beautiful than any diamond,” she whispered to him after they broke the kiss, clasping the gold ring close to her heart.

“No more beautiful than you,” he said, then he kissed her again. (Google Books)¹³

（「どんなダイヤモンドよりきれいね」---「君だってきれいだよ」）

これは本稿の枠組みではどのように説明されるでしょうか。

これについては文の情報構造と関連づけることで説明ができます。

10.2. 文の情報構造とは

英語でも日本語でも、文の中の要素の配列の仕方には2つのレベルで規則性があります。一つは統語構造に基づくもので、「英語では名詞句の前に前置詞句が来るが日本語では名詞句の後に後置詞（助詞）が来る」といったものです。もう一つが情報構造に基づくものです。以下、文の情報構造について簡略に解説しておきます。

文の情報構造について Huddleston and Pullum (2002) は次のようにまとめています。

(72) Some general tendencies regarding information structure

- a. Heavy constituents tend to occur at or towards the end of the clause.
- b. The focus typically appears at or towards the end of the clause.
- c. Subjects are the dependents that are the most likely to be addressee-old.
- d. Information that is familiar tends to be placed before that which is new.
- e. Information packaging constructions tend to be restricted with respect to the range of contexts in which they can felicitously occur.

（Huddleston and Pullum (2002: 1372)）

本稿に特に関係するのは (72d) で、これについて上山 (2016) は次のように

¹³ Jina Bacarr (2012) *Titanic Rhapsody* (Ellor's Cave Publishing, Inc.) p.291.

<https://books.google.co.jp/books?id=-z87ME4m2s8C&pg=PA291> （2017年4月1日時点では本文アクセス不可。）

書いています。

(73) 情報の流れの原則 I (Principle of Information Flow I):

談話 (discourse) は既知から未知へと流れていくのが自然であるため、できるだけ旧情報を前に置き、新情報を後ろに置こうとする強い傾向が見られる。 (上山 (2016: 34))

具体的な例を見てみましょう。二重目的語構文を使った (74) では、(74a) が自然な文なのに対して (74b) は不自然になります。

(74) a. John gave the girl a book.

b. ?? John gave a girl the book. (久野・高見 (2005: 103, 104))

2つの文の違いは冠詞の違いで、これは情報が旧情報・既知情報か新情報・未知情報かの違いです。The がついた名詞句はすでに談話に出てきた事物を指すことが多く、基本的に旧情報あるいは聞き手にとって既知の情報を表します。一方 a がついた名詞句は新情報あるいは聞き手にとって未知の情報を表します。したがって (74) は情報構造の観点からは次のようになります。

(75) a. 旧情報・既知情報→新情報・未知情報

b. ?? 新情報・未知情報→旧情報・既知情報

(73) が言っているのはこのようなことです。

次の (76) にあるように to を使った構文ではこの差ははっきりとは出ないようですが、(77) にあるような違いは出てきます。

(76) a. John gave a book to the girl.

b. John gave the book to a girl. (久野・高見 (2005: 103, 104))

(77) (映画館で、休憩時間にアイスクリームかソフトドリンクを買おうと思って売場に行った時の話)

Quite a lot of the audience were waiting to buy ice-creams from the girl who was selling them, so Mrs. Evans waited for her turn. There was a small boy in front of her. When it was his turn, he

a. offered the girl a dollar

b. offered a dollar to the girl

and asked for an ice-cream. ... (久野・高見 (2005: 105))

この場合、a.とb.のどちらがより適切かという、b.も間違いではありません

が a.の方が適切ということです (久野・高見 (2005: 105-106))。

次は Hilpert (2014) の例です。(78) (79)では二重目的語構文と *to* を使った構文のどちらが自然でしょうか。

(78) A: Do we have any more wine?

B: No, I'm afraid there's nothing left.

A: But we had that last bottle of Merlot!

B: Yes, but I gave {John that last one / that last one to John}. (Hilpert (2014: 188))

(79) A: Do we have any more wine?

B: No, I'm afraid there's nothing left.

A: But it's John's birthday and I need to bring something!

B: Yes, well, you could give {John some chocolates / some chocolates to John}.

(Hilpert (2014: 188))

(78)では *that last one to John* の方が自然、(79) では *John some chocolates* の方が自然です。

最後に能動態と受動態の例を挙げておきましょう。

(80) の能動文と受動文はどちらも文法上適格ですが、(81) のようにすると自然さに違いが出てきます。

(80) a. All the journalists were immediately smiled at by her.

b. She immediately smiled at all the journalists. (瀬田 (1997: 161))

(81) a. * Mariah Carey stepped off the plane. All the journalists were immediately smiled at by her.

b. Mariah Carey stepped off the plane. She immediately smiled at all the journalists. (瀬田 (1997: 162))

10.3. クジラ構文と情報構造

以上を踏まえてクジラ構文を考えます。

まず問題になるのは「前件と後件」と「相手の発話内容と話し手が付け加える内容」の対応関係です。この2つの間には「旧情報・既知情報と新情報・未知情報」および「先行文脈に現れた要素と新規の要素」を媒介とした対応関係が成立しやすいと言えます。

クジラ構文においては前件が後件に先行します。また情報構造の観点から見ると、文の中で旧情報を担う要素は新情報を担う要素に先行する傾向があります。したがってクジラ構文では前件が旧情報に対応しやすく、後件が新情報に対応しやすいという傾向があることとなります。

一方で、相手の発話内容と話し手が付け加える内容とは、相手の発話内容は先行文脈、話し手が付け加える内容は新規の要素、ということになるでしょう。また、先行文脈に現れた要素は旧情報として扱われやすいでしょう。それに対して新規の要素は新情報として扱われやすいでしょう。

以上から、クジラ構文においては「前件と後件」と「相手の発話に現れた要素と話し手が付け加える要素」の間には表2のような対応関係が成立しやすいこととなります¹⁴。

表2:クジラ構文における「前件・後件」と「相手の発話内容・話し手が付け加える内容」の対応関係

先行要素	後続要素
前件	後件
旧情報・既知情報	新情報・未知情報
先行文脈に現れた要素	新規の要素
相手の発話内容	話し手が付け加える内容

柏野 (2012) による (68) の指摘はこれによって説明されることとなります。

本稿で言う「前を下げる（前件の蓋然性を見積もりを下げる。後件は固定。）」は、表2によれば、相手の発話内容の蓋然性を見積もりを下げることに繋がります。これは相手に対して反論するということです。「前を下げる」に該当するのはいわゆるクジラの解釈（前件否定）と「実はそれほどでもない」の解釈（前件抑制）なので、この2つが反論を提示する機能を帯びやすいわけです。

一方本論で言う「後ろを上げる（後件の蓋然性を見積もりを上げる。前件は固定。）」は、表2によれば、相手の発話内容の蓋然性には影響を与えないこととなります。これは相手の発話内容に対していったん賛成することとなります。「こっちだってそうだ」の解釈（後件指摘）が相手に同意するときに用いられやすいのはこのためと言えます。

以上で、クジラ構文の語用論的機能についての柏野 (2012) による (68) の指

¹⁴ あくまでも傾向の問題なので、必ずこうなるということではありません。

摘が本稿の枠組みで説明できました。

11. いくつかの例

説明が終わったところで、いくつか例を見ておきましょう。

- (82) a. For many people over 50, dry eyes are just another sign of aging, no more a nuisance than gray hair or crow's feet. (*The New York Times* Sept. 13, 2005)

[大意] ドライアイはわずらわしいが、せいぜい白髪かカラスの足跡程度だ。

- b. Backers of such laws point to the more than 80,000 skateboarding injuries reported to the Consumer Product Safety Commission last year as proof that the activity can be hazardous. But skateboarding proponents say their sport is no more dangerous than bicycling. (*The New York Times* July 30, 1989)

[大意] スケートボードは危険だとしてもたかだか自転車くらいだ。

(例文、訳、ともに柏野(2012: 234)より。)

(82a) は白髪やカラスの足跡(目じりのしわ)をどう捉えるかによって解釈が変わってきます。これらについて、「ちょっと気になるものではあるけれども大したことはない」と考える人にとっては(82a)は「実はそれほどでもない」の前件抑制型と解釈されますし、「まったく気にもならない」と考える人にとっては(82a)はいわゆるクジラの前件否定型と解釈されます。ここに提示した日本語訳は前件抑制型としての解釈に基づいています¹⁵。(82b)についても同様です¹⁶¹⁷。

以下には、先行研究であまり言及されていない「こっちだってそうだ」(後件指摘)の解釈の例を挙げておきます。

¹⁵ この例の場合、文脈無しでこの文だけが提示された場合、話し手と聞き手(あるいは書き手と読み手)で白髪やカラスの足跡についての考え方が一致していない場合、文自体の解釈にも書き手と読み手でずれが生じる可能性があります。この文の原文は次の URL で読むことができますので、書き手の意図がどうであったかについてはみなさんそれぞれ確認されるとよいと思います。
<http://www.nytimes.com/2005/09/13/health/for-dry-eye-sufferers-lots-of-tears-bring-major-relief.html>

¹⁶ こちらの原文は次の URL で読めます。

<http://www.nytimes.com/1989/07/30/style/life-style-skateboarders-outgrow-their-bad-boy-image.html>

¹⁷ 柏野(2012: 234)は(82)を両方とも「B-2」(本稿で言う後件指摘型)の例と見っていますが、ここでは前件抑制型またはいわゆるクジラ型の例と見えています。

(83) What I did is no worse than what you and your father had planned for me.

(平沢(2014))

(84) 前件 What I did is bad.

後件 What you and your father had planned for me is bad.

(85) 事前想定

(ひどさの程度)

(高) what I did is bad

|

(低)

what you and your father had planned for me is bad

(86)

(ひどさの程度)

(高) what I did is bad

|

↑

(低)

what you and your father had planned for me is bad

(87)

(ひどさの程度)

(高) what I did is bad

what you and your father

|

had planned for me is bad

(低)

(88) 僕がしたことと同じくらい酷いことを、君と君のパパも企んでいたじゃないか。 (平沢 (2014))

ここから先の例については、解説は省略します。

(89) Don't worry about your test result: it was no worse than anyone else's.

テストの結果は気にしなくてもいいよ。他のみんなも変わらないから。

[その人のテストの結果は確かに悪かったが、他の人も同じくらい悪かった] (柏野 (2012: 235)、訳は変更してある。)

(90) "So am I. It just took me longer to realise something you seemed to know all

along ... that love doesn't *get* in the way --- it *lights* the way." The smile she gave him was luminous. "What a beautiful thought."

"No more beautiful than you." Then he took her hands in his, and with his gaze locked on hers, spoke in a voice that was steady and sure. "I planned to ask you this question two weeks ago. I'd like to try again now. Tess Lockwood, would you do me the great honor of becoming my wife?"

Tess's eyes once more brimmed with tears. (Google Books)¹⁸

(91) (妻になる女性から贈られた花瓶を見て、その女性に向かって)

Louis touched it with one finger, his face solemn. It is beautiful, but no more beautiful than you, lady. (Google Books)¹⁹

12. 「イディオムだから意味の仕組みを考えても仕方ない」のか？

クジラ構文の意味についての一つの立場として、「これはイディオムだから意味の仕組みを考えても仕方ない」と諦める考え方があります。本稿の冒頭で述べたように、この考え方には学問的には問題があります。

クジラ構文の解釈に、文中に現れる要素の意味を足して合計しただけでは導き出せない部分があることは確かです。たとえば本稿の冒頭に出した次の例をもう一度見てみましょう。

(92) A whale is no more a fish than a horse is. (= (14))

第5節で述べたように、この文の意味を比較表現の意味の仕組みだけから考えようとする、次のようになるのでした。そしてこれは、この文の解釈を十分に記述したものとは言えないのでした。

(16) ● ちょっと考えると、「クジラは魚である」は「馬は魚である」に比べて真である可能性が高いと思われるかもしれない。つまり A whale is more a fish than a horse is a fish. とと思われるかもしれない。

(差の存在についての想定)

● しかし実際には両者の間の差はゼロである。(差分スロットには *no* が入っている。)
(差の存在についての想定)の覆し)

● つまり「クジラは魚である」は「馬は魚である」に比べて真である可能

¹⁸ Irene Hannon (2003) *Crossroads* (Harlequin/Steeple Hill) p.202
<https://books.google.co.jp/books?id=MBuRRDZcWjYC&pg=PT202>

¹⁹ Anne O'Brien (2011) *Devil's Consort* (Mira Books) p.14
<https://books.google.co.jp/books?id=6M8RpZY-DmgC&pg=PT14>

性が高いわけではなく、両者の差はゼロである。

ということなので、文中に現れる要素の意味を足して合計しただけでは導き出せない部分がクジラ構文の意味にあることは間違いありません。

しかしそうだからと言って、「これはイディオムだから意味の仕組みを考えても仕方ない」と考えてしまうと重要な問題が生じます。それは次の疑問に答えられなくなってしまうということです。

(93) それでは、英語という言語にそのような変なものが生まれてしまったのはなぜなのか。

この問題は、クジラ構文に限らず「イディオム」と呼ばれるものすべてに成り立つはずで

す。それでは、本稿の議論はこの問題に対してどのような立場をとっていることになるのでしょうか。

第5節で述べたように、この文の意味を適切に解釈するには次の一般常識的な知識が必要になるのです。

(17) 「馬が魚である」可能性は(一般常識からも明らかなように)皆無である。

そしてこの知識が(16)と組み合わせられることによって、次の(19)の解釈が生まれるのです。

(19) クジラが魚でないのは馬が魚でないのと同じだ。

以上から、次のことが言えます。

(94) 文中に現れる要素の意味はクジラ構文の解釈に間違いなく生き残っており、全体の意味にきちんと貢献している。

そして「具体的にどのような形で貢献しているのか」について、本稿で考えてきたわけです。

クジラ構文というイディオムにおいては、構成要素の意味の足し算から全体の意味を「予測」(predict)することはできませんが、構成要素の意味は全体の意味を「動機づける」(motivate)ものとなっている、というわけです。

13. まとめ

以下に本稿の議論をまとめておきます。

クジラ構文の意味は(3)です。

(3) 「クジラ構文 (no more ... than)」の意味は、「後行命題が真である蓋然性よりも先行命題が真である蓋然性が高いだろう」という聞き手の想定を否定

し、その二つの蓋然性の間に差はない（つまり同程度である）と述べることにある。 (平沢 (2014: 202))

これは、クジラ構文を比較表現の差分スロットに *no* が入ったものとする立場です。この *no* は次の役割を果たしています。

(13) 比較表現の差分スロットに現れる *no* は何を表すか？ (確定版)

比較表現の差分スロットに入った *no* は、後続の比較級で表されるような差が存在するだろうという事前の想定が誤りで、実は差分がゼロであるということを表す。

よく言及される (95a) においては (95b) のような一般常識的な知識 (フレーム) が関わっています。

(95) a. A whale is no more a fish than a horse is. (= (14))

b. 「馬が魚である」可能性は (一般常識からも明らかなように) 皆無である。 (= (17))

クジラ構文には少なくとも次の3つの解釈があります。

(96) a. いわゆるクジラ (前件否定) の解釈

b. 「実はそれほどでもない」 (前件抑制) の解釈

c. 「こっちだってそうだ」 (後件指摘) の解釈

これは次の2つの仕組みから生じるものです。

(97) a. 差の存在の想定を打ち消すための認知操作に2つあること。

---前を下げる (前件の蓋然性を見積もりを下げる。後件は固定。)

---後ろを上げる (後件の蓋然性を見積もりを上げる。前件は固定。)

(Cf. (37))

b. 「前を下げる」における「命題が真と捉えられる程度が低い」の実質に2つの場合があること。

---「程度がゼロ」の場合

---「程度がゼロではないが漠然と低い、程度が他に比べて相対的に低い」
の場合 (Cf. 第8節)

3つの解釈が生じる仕組みをまとめたものが第9節の表1です。

また、柏野 (2012) の指摘によれば、クジラ構文は次のような語用論的な特

性を持ちます。

- (68) いわゆるクジラの解釈（前件否定）と「実はそれほどでもない」の解釈（前件抑制）は相手に対する反論を提示する機能を持つことがあり、「こっちだってそうだ」の解釈（後件指摘）は相手に同意するときに用いられることがある。 (引用ではなく本多によるまとめ)

これについては文の情報構造と関連づけることで説明ができます。

クジラ構文の全体としての意味は、文中に現れる要素の意味を足して合計しただけでは導き出すことはできません。すなわち、クジラ構文の全体としての意味を文中に現れる要素の意味から予測することはできません。その意味で、クジラ構文はイディオムであると言えます。しかしその一方で、文中に現れる要素の意味はクジラ構文の解釈に間違いなく生き残っており、全体の意味にきちんと貢献しています。つまり構成要素の意味は全体の意味を動機づけるものとなっているわけです。

14. 章末問題

14.1. その1: 確認

本文中で「みなさんそれぞれ」考えてみてください、のように書いたところを考えてみてください。

- 第4節
- (22)について
- 注15

14.2. その2: 類例

次の文を本稿の枠組みで分析してください。

- (98) I happen to know some Bulgarians, and I would say that they are pretty skeptical as people go --- but no more so than people from many other countries.

(McWhorter (2014: 40))

- (99) a. Things that take up no more space than a cigarette packet can now have a vast amount of data.

- b. He could no more understand what went on in a twenty-year-old's head than fly to the moon. (廣田 (2015))

14.3. その3: 比較級以外の例

クジラ構文と同様の意味効果は、比較級以外のものにも見られます。次の例を分析してみてください。この文は、スペイン語では *the man with whom I came* に対応する言い方はできるけれども *the man whom I came with* のような言い方はできない、という趣旨のものです。

(100) note that *El hombre quien yo llegué con* ('The man whom I came with') feels about as natural as wearing your pants inside out. (Web)²⁰

参考文献

- Hilpert, Martin (2014) *Construction Grammar and its Application to English*, Edinburgh University Press, Edinburgh.
- Huddleston, Rodney D. and Pullum, Geoffrey K., eds. (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*, Cambridge University Press, Cambridge, UK.
- McWhorter, John H. (2014) *The Language Hoax : Why the World Looks the Same in Any Language*, Oxford University Press, Oxford.
- 今井隆夫 (2012) 「No more than 類の意味を perspective の違いから考える」『瀬木学園紀要』6, 37-46, Available from http://www.mizuho-c.ac.jp/images/library/kiyo_06/amckiyo-no06-04.pdf.
- 上山恭男 (2016) 『機能・視点から考える英語のからくり』 開拓社言語・文化選書 63.
- 大西泰斗・マクベイ ポール (2011) 『一億人の英文法:すべての日本人に贈る:「話すため」の英文法』,ナガセ.東進ブックス.
- 柏野健次 (2012) 「「クジラの公式」とは何だったのか」.『英語語法レファレンス』228-239. 三省堂.
- 久野暲・高見健一 (2005) 『謎解きの英文法 文の意味』くろしお出版.
- 澤田治美 (2016) 「補文の意味解釈をめぐる---特に感嘆文と WH 疑問文を中心に---」日本英文学会関西支部第11回大会シンポジウム「英語学研究に基づく高校生・大学生のための学習英文法」における口頭発表(2016年12月17日、神戸市外国語大学).
- 瀬田幸人 (1997) 『ファンダメンタル英文法』ひつじ書房.
- 平沢慎也 (2012) 「「クジラ構文」の「構文」としての意味はどこにあるのか」『英語語法文法研究』19, 50-65.
- 平沢慎也 (2014) 「「クジラ構文」はなぜ英語話者にとって自然に響くのか」『れ

²⁰ John McWhorter "English is not normal."

<https://aeon.co/essays/why-is-english-so-weirdly-different-from-other-languages>

にくさ』5, 199-216, 東京大学文学部現代文芸論研究室 (れにくさ=Р е н и
к с а: 現代文芸論研究室論集); Available from
<http://hdl.handle.net/2261/59244>.

廣田篤 (2015) 「No more A than B 構文の認知言語学的・語用論的分析」 『人
間社会環境研究』 30, 23-29, 金沢大学大学院人間社会環境研究科, Available
from <http://hdl.handle.net/2297/43377>.

本多啓 (2015a) 「*Be Going To* はどのような仕組みで未来を表わすのかについて、
たどたどしく考える」 (山口他(2015: 55-81)), Available from
<http://id.nii.ac.jp/1085/00001855/>.

本多啓 (2015b) 「*Even If*に見る *Even* の力」(山口他(2015: 83-122)), Available from
<http://id.nii.ac.jp/1085/00001856/>.

明日誠一 (2014) 「「クジラの公式」の修辭的解釈を導出するメカニズム: 主節
の命題否定と属性否定の 2 つの読みを巡って」 『英語語法文法研究』 21,
89-105, 英語語法文法学会.

八木克正 (2015) 「比較構文と同定イディオム--- no more ... than 構文の本質---」
『英語語法文法研究』 22, 167-182, 英語語法文法学会.

山口治彦・三間英樹・那須紀夫・本多啓 (2015) 『外国学研究 87 英語学基礎科
目における教授方法の研究』 神戸市外国語大学外国学研究所.

Keywords: クジラ構文 比較構文